

平成 17 年度事業報告

自 平成 17 年 4 月 1 日～至 平成 18 年 3 月 31 日

会長・理事 齊 藤 忠 夫

次期会長・理事	伊澤達夫	理事	篠原弘道	理事	持田侑宏
副会長・理事	鈴木滋彦	理事	成宮憲一	理事	中沢正隆
副会長・理事	白川 功	理事	土井美和子	理事	雨宮真人
副会長・理事	青山友紀	理事	森広芳照	理事	坂庭好一
副会長・理事	赤岩芳彦	理事	桑原秀夫	理事	井上友二
理事	中野博隆	理事	篠田庄司	理事	保立和夫
理事	中嶋正之	理事	古井貞熙	理事	木戸出正継
理事	間瀬憲一	理事	高木幹雄	監事	後藤裕一
理事	並木淳治	理事	築山修治	監事	今井和雄
理事	酒井善則				

事業概況

平成 17 年度は昨年度に引き続きソサイエティ活動の自立化に向けた取組みを本部と連携を取りながら推進した。

本部の活動としては会員へのサービスの向上を継続して進め、これまで取り組んできた「研究発表と教育を両輪とした取組み」を継続して行動の基本姿勢におき、平成 17 年度はこの取組みを更に発展させた。

(1) 会員サービスの向上としては

- オンラインジャーナル移行へ向けて検討を重ね、従来機関誌として紙ベースの論文誌を 1 誌配布していたが、所属ソサイエティの和・英オンラインジャーナルを配信することとした。図書館等については継続検討としている。
- 次期総合版ハンドブックとして紙ベースから電子化へ移行することを諮り、第 8 次ハンドブック／知識ベース委員会を発足させた。
- 男女共同参画委員会は、18 年 3 月の総合大会に託児施設を開設して、女性会員が積極的に学会活動に参加できるように利便を図った。
 - ・会誌の改善を更に進め、記事内容の見直しを推進し、より身近な機関誌とした。
 - ・選奨検討委員会において、選奨に関する取組みを充実させた。
 - ・学生ランチ(Student Branch)への参加校数の増大を中心に学生会の活動を推進した。
 - ・海外地域代表者制度の定着化を進めた。
 - ・先端オープン講座、各種専門講習会を開催した。
 - ・大学の教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」のシリーズの充実を促進した。

(2) ソサイエティに関連する活動としては

- 通信ソサイエティでは、平成 17 年度は独立採算化へ向けた試行を行い、18 年度から本格実施に入る。エレクトロニクスソサイエティにおいても 18 年度試行、19 年度本格実施へ向けて規程、体制等を整備した。他ソサイエティにおいても検討を開始した。
- 各研究会が共通に利用できる電子投稿システムの開発

に着手した。

- ・平成 16 年 4 月に創刊したペーパーレスの電子ジャーナル (ELEX : IEICE Electronics Express) の更なる推進を図った。
- ・電子ジャーナル時代の会員制度のあり方の検討と合わせて、学会費とソサイエティ会費のあり方について方向付けについても継続的に検討を行っている。
- ・「FIT (Forum on Information Technology) : 情報科学技術フォーラム」を情報・システムソサイエティ (平成 16 年度担当)、ヒューマンコミュニケーショングループ、情報処理学会の合同で開催した。

(3) 教育面での活動としては

- CPD (Continuing Professional Development) 部会は、電気学会、情報処理学会と連携して CPD を推進するために「電気電子・情報系 CPD 協議会」を設立し、活動を開始した。
- ・認定企画実施委員会 (APC : Accreditation Policy Council) は JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) 本体の活動に協力し、連携を密にして取組みを進めた。
- ・大学の教育プログラムの審査・認定に関しては、平成 17 年度も引き続き電気学会、情報処理学会との連携を密にしながら、審査活動を行った。
- ・本学会が主催する JABEE 自主研修会を年 2 回開催し、審査員の養成、既に研修を受けた人に対する変更事項の周知、等の定常的な活動を行った。

(4) その他の事項としては

- 会員増強委員会では、会員の定着及び会費収入の安定化を図るため 19 年度から会費を前納制とすることとした。更に銀行自動引き落としも奨励することとし、会員へのインセンティブとして割引制度を導入することとした。
- ・青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を継続し、既に一部試行した支部との連携を更に発展させ、地域に根ざした活動として展開した。従来と同様に 17 年度も会員の寄付を募り活動の充実を図った。

- ・「電気・情報関連学会連絡協議会」において直面している長期的な共通問題に対して協議会を2回開催した。
- ・平成15年度科学研究費補助金(5年間)による日本の卓越技術のデータベース作成を本年度も継続して推進した。
- ・ホームページを中心とした広報活動の充実に努めた。
- ・会員増強に向けて継続的に活動した。会費未納会員への繰返し要請や退会維持員への再要請等を行った。
- ・編集連絡会では、論文誌の一層の質の向上を図るため、査読委員並びに編集委員を対象とした論文査読に関する説明会を総合大会の会場で開催した。

以下に各事業の実施状況を報告する。(○は17年度に新規に行ったもの)

(氏名につきましては、敬称を略させていただきます)

I. 本部事業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況(定款第6条イ)

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成17年4月から18年3月まで12冊、合計420,700部(月平均35,058部)を発行配布した。

平成17年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種類	件数	ページ数	種類	件数	ページ数
講演	1	6	解説	31	196
4月小特集(ニューロコンピュータ研究の歴史とその将来)	4	22	講座	7	43
4月小特集(ターボ符号・LPDC符号と繰返し復号の理論)	6	23	寄書	2	7
5月特集(安全に暮らしたい)	13	78	回想	2	7
6月小特集(宇宙探査への挑戦—NASAと中国の事例から—)	4	20	学生/教養のページ	13	42
6月小特集(進化するプリント基板技術)	6	34	オピニオン	1	2
8月小特集(平面ディスプレイ)	9	47	ニュース解説	24	38
9月小特集(確率を手なづける秘伝の計算技法—古くて新しい確率・統計モデルのパラダイム)	9	40	総合報告	1	21
10月特別小特集(エレクトロニクスの新展開—未来を担う若者に向けたメッセージ)	7	29	ソサイエティのページ	3	5
11月特集(女性会員に期待する)	13	76	学生会報告	2	13
12月小特集(ユビキタス電磁環境を支える新しい電波吸収体技術)	6	35	支部だより	2	2
1月特別小特集(情感のコミュニケーション)	6	25	予定目次	11	0
1月小特集(バイオメトリクスセキュリティ)	7	30	学会ニュース	3	0
2月小特集(サブ100nm時代のシステムLSIとビジネスモデル)	9	55	慶賀	0	0
3月小特集(コミュニケーション支援)	12	60	追悼抄	4	4
			国際会議	24	7
			図書紹介	6	3
			国内文献目次		7
			図書寄贈一覧		19
			本会だより		12
			編集室		8
			役員等口絵		74
			総会・選奨		2
			フェロー口絵		10
			会誌総目次		6
			学会編集室		
			計		1,108
			巻頭言	12	12
			目次	12	36
			目次		630
			告		
			合計		1,786

*その他: 広告(カラー, 前付, 後付等) 305.5 ページ

1.2 広告賞について(定款第6条チ)

平成17年広告賞として下記の2点を選定した。

平成17年度事業報告

【カラー広告部門】(株)インタフェース
「改良宣言」(7, 8月号)

【一色刷り広告部門】住友電気工業(株)
「住友電工は、高度情報化社会を支えるネットワークを構築しています。」
(1, 7, 11月号)

1.3 ハンドブックについて(定款第6条ト)

次期総合版ハンドブックについて、全電子化し、データベース化したハンドブック(知識ベース)を構築するための検討を行った。

平成18年2月理事会で知識ベースの構築と構築費用の計上、第7次ハンドブック委員会の活動報告と解散、第8次委員会の設立(名称をハンドブック委員会からハンドブック/知識ベース委員会に変更)についてそれぞれ承認を得た。第7次ハンドブック委員会(松村正清委員長)は解散し、第8次ハンドブック/知識ベース委員会(原島博委員長)において知識ベースの構築準備を進めることとなった。

1.4 単行本(定款第6条ト)

平成17年度は新刊2点2,200部、重版4点1,800部を発行した。

なお、平成16年度から刊行を開始したB5判単行本について、17年度は第2弾として「広域イーサネット技術概論」を刊行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	判型	発行年月日	頁数	部数
広域イーサネット技術概論	B5	H17.6.1	202	1,200
移动通信ネットワーク技術	A5	H17.6.1	180	1,000

1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行(全62巻)(定款第6条ト)(コロナ社委託出版)
昭和55年8月以降既刊書目51点。平成17年度は重版15点を発行した。

1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全65巻)(定款第6条ト)(コロナ社委託出版)
大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成17年度は新刊1点、重版9点を発行した。
新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
電子情報通信技術史	H18.3.20	276	1,000

(平成14年3月第1回配本以降通算14点)

2. 会議に関する事項(定款第6章)

2.1 第79回通常総会

平成17年5月28日(土)午後2時から機械振興会館において第79回通常総会を開催した。社員総数178名に対し、出席社員数116名(委任状を含む)で、定款第45条に定める社員総数の過半数の出席に達した。よって、甘利会長を議長として下記議案を付議して、いずれも原案通り可決承認した。

平成16年度事業報告について

平成16年度収支決算報告について

規則の改正について

平成17年度事業計画(案)について

平成17年度収支予算(案)について

2.2 理事会, 評議員会

年度内に8回の理事会を開催し, うち3回を評議員会と合同で開催した。

2.3 支部長会議

平成18年3月25日(土)に開催し, 各支部の活動報告, 本部一支部間の意見交換を行った。

2.4 海外地域代表者会議

国際委員会において海外地域代表者制度による海外地域代表者9名が, 各Sectionにて講演会等を企画・実施することに協力するとともに, 本学会活動の周知・宣伝に努めた。また, 第4回海外地域代表者会議を総合大会期間中(国士館大学)の3月26日に開催し, 台北, 北京, シンガポール, バンコク, インドネシア, 韓国から代表者が出席し意見交換を行った。

各Sectionにおいての講演会等の実施件数は次のとおりである。

Section	件数	Section	件数
台北	2	北京	1
シンガポール	2	バンコク	0
インドネシア	1	香港	0
韓国 (Information)	1	韓国 (Communication)	1
韓国 (Electronics)	1		

3. 規格調査会に関する事項 (定款 第6条ニ)

委員会議を4回, 専門委員会及び小委員会を87回開催した。取り扱ったIEC文書は663件で, そのうち184件に対して日本の意見を回答した。

規格調査委員会名	専門委員長名	委員数		開催数	
		専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 規格調査委員会	高木 幹雄	15	0	4	0
2 電子部品のデータ要素	高木 幹雄	0	26	0	5
3 通信用伝送線路	西村 陽	11	42	5	15
4 周波数制御・選択デバイス	兒島 俊弘	24	22	4	5
5 光ファイバ	羽鳥 光俊	20	65	4	16
6 デザインオートメーション	高木 幹雄	17	35	7	4
7 無線通信用送信装置	福地 一	16	0	3	0
8 電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0	0
9 電子通信記号		14	0	0	0
10 複雑システムの安全規格委員会	鈴木 喜久	10	0	5	0
合計		151	186	32	45
				77	

4. 選奨に関する事項

「選奨検討委員会」を「選奨委員会」に委員会名を変更し, 新たな賞の新設に関する検討を行った。

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ, 次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞 (第67回) (定款 第6条ホ)

池田 博 昌 (東京情報大)
 榊 裕 之 (東大)
 高木 幹 雄 (芝浦工大)
 畚 野 信 義 (ATR)
 森 健 一 (東京理科大) 以上5名

4.2 業績賞 (第43回) (定款 第6条ホ, ヘ)

選奨規程第9条イ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
スペクトル拡散通信モデムの開発と実用化	坪内 和夫 (東北大)
ブロードバンド無線 LAN における OFDM 方式の先駆的研究開発	守倉 正博 (NTT) 溝口 匡人 (NTT) 鬼沢 武 (NTT)
ミリ波通信システム技術における先駆的研究	小川 博世 (NICT)

以上3件

選奨規程第9条ロ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
ソフトウェア無線技術を用いたマルチモード無線機に関する先駆的研究・開発・普及促進	原田 博司 (NICT)
走査線 4000 級超高精細映像システム・スーパーハイビジョンの研究開発	岡野 文男 (NHK) 佐藤 正人 (日本ビクター) 萩野 憲一 (池上通信機)
テラビット級 WDM 長距離光伝送システムの研究開発実用化	萩本 和男 (NTT) 織田 一弘 (NTT) 平子 正典 (NTT コミュニケーションズ)

以上3件

4.3 論文賞 (第62回) (定款 第6条ホ, ヘ)

(分冊別掲載年順)

A	論文名 Deriving Discrete Behavior of Hybrid Systems under Incomplete Knowledge 著者名 平石邦彦 (北陸先端大) 掲載年月 平成16年11月 (EA)
A	論文名 Efficient Blind MAI Suppression in DS/CDMA Systems by Embedded Constraint Parallel Projection Techniques 著者名 湯川正裕・Renato L.G. Cavalcante・山田 功 (東工大) 掲載年月 平成17年8月 (EA)
A	論文名 Blind Separation and Deconvolution for Convolutional Mixture of Speech Combining SIMO-Model-Based ICA and Multichannel Inverse Filtering 著者名 猿渡 洋・山丈浩章・高谷智哉 (奈良先端大), 西川剛樹 (松下電器), 鹿野清宏 (奈良先端大) 掲載年月 平成17年9月 (EA)
B	論文名 Modeling and Analysis of OFDM Transmission Characteristics in Rayleigh Fading Environment in Which the Delay Profile Exceeds the Guard Interval 著者名 唐沢好男 (電通大), 下条則之 (パナソニックモバイルコミュニケーションズ), 和泉隆亮 (NTT ドコモ) 掲載年月 平成17年7月 (EB)
B	論文名 レイリーフェージング環境における広帯域信号の瞬時レベル変動に関する理論解析 著者名 井上 隆 (KDDI 研), 唐沢好男 (電通大) 掲載年月 平成17年9月 (B)
B	論文名 雑音部分空間を利用する Cyclic ESPRIT による所望波の到来方向推定とその性能改善 著者名 稲垣好之 (ニデック)・菊間信良・平山 裕・榊原久二男 (名工大) 掲載年月 平成17年9月 (B)
C	論文名 On-Chip di/dt Detector Circuit 著者名 名倉 徹 (NEC), 池田 誠・浅田邦博 (東大) 掲載年月 平成17年5月 (EC)
C	論文名 Si 細線導波路 著者名 馬場俊彦 (横浜国大), 坂井 篤 (リコー), 深澤竜彦 (日立), 大野文彰 (横浜国大) 掲載年月 平成17年6月 (C)
C	論文名 Novel Stacked Packaging Structure Using Silica-Based PLC with Integrated Micro-Mirrors and Its Application to 8ch PD Array Module 著者名 小川育生・阿部 淳・土居芳行・鈴木扇太 (NTT) 掲載年月 平成17年8月 (EC)

D	論文名 著者名 掲載年月	3次元画像解析とグラフィックス技術の医学応用に関するサーベイ 村木 茂 (前産総研)・喜多泰代 (産総研) 平成 16 年 10 月 (D-II)
D	論文名 著者名 掲載年月	調波構造に基づくモノラル音声信号のブラインド残響除去 中谷智広・三好正人・木下慶介 (NTT) 平成 17 年 3 月 (D-II)
D	論文名 著者名 掲載年月	影に基づく光源推定の周波数解析と Haar ウェーブレットを用いた適応的手法の提案 岡部孝弘 (東大), 佐藤いまり (NII), 佐藤洋一 (東大) 平成 17 年 8 月 (D-II)

(A, B, C, D は分冊名) 以上 12 編

4.4 猪瀬賞 (第 12 回) (定款 第 6 条ホ, へ)

論文名 著者名 掲載年月	Novel Stacked Packaging Structure Using Silica-Based PLC with Integrated Micro-Mirrors and Its Application to 8ch PD Array Module 小川育生・阿部 淳・土居芳行・鈴木扇太 (NTT) 平成 17 年 8 月 (EC)
--------------------	--

以上 1 件

4.5 学術奨励賞 (第 68 回) (定款 第 6 条ホ, へ)

[A. 基礎・境界]: 11 名 (五十音順)

受賞候補者	所属	題 名	講演番号	大会名
荒木 章子	NTT	観測ベクトルのクラスタリングによるブラインド音源分離	A-10-7	ソサイエティ
石井 陽子	NTT	情報を降らせるインタフェース	A-15-33	総合
小野 文枝	東京理科大	同期信号埋め込み型パルス位置変調方式の誤り率特性	A-5-31	総合
笠井 健太	東工大	Design of Irregular LDPC Codes with Uniform Check Node Degree Distributions	A-6-1	ソサイエティ
木村 貴幸	埼玉大	カオスニューラルネットワークを用いたパケット網ルーティング方式	A-2-7	ソサイエティ
笹岡 直人	鳥取大	OFDM 変調用雑音除去システムに関する一検討	A-20-3	総合
		騒音再合成法のステップサイズ制御に関する検討	A-20-1	ソサイエティ
土谷 亮	京大	オンチップ伝送線路の基板損失に対する下層配線の影響	A-3-12	総合
筒井 弘	京大	JPEG2000 エントロピ符号器における SRAM の構成方法	A-1-22	ソサイエティ
原田 康祐	東芝	IEEE802.11n モデルにおけるリストビタビ復号を用いたパケット誤り率特性改善効果	A-6-4	総合
		符号分割多重重畳放送システムにおけるパリティビットの多重化と復号方法に関する検討	A-6-18	ソサイエティ
松浦 隆文	埼玉大	カオスダイナミクスを用いた DNA 塩基配列からのモチーフ抽出	A-2-11	総合
八木 将計	京大	イデアル商を用いた共振回路の分岐図の分解	A-1-38	総合

[B. 通信]: 40 名 (五十音順)

受賞候補者	所属	題 名	講演番号	大会名
縣 亮	KDDI 研	WDM 光伝送におけるデータ信号の映像信号に対するラマンクロストークに関する検討	B-10-70	総合
		放送光信号が波長多重された GE-PON システムにおける下りデータ信号に対するラマンクロストークの影響	B-8-11	ソサイエティ
秋永 和計	NTT ドコモ	無線アクセスシステムにおける予測を用いた規制制御の評価	B-6-69	ソサイエティ
天野 良晃	KDDI	SDMA パケットセルラーシステムにおける送信アレー重み正規化法	B-1-188	ソサイエティ
伊藤 俊輔	早大	優先制御を用いたストリーミング配信とダウンロード配信における事業者収益の最大化	B-11-9	ソサイエティ

伊藤 匠	NEC	QRM-MLD における消失するビット尤度の補完法に関する検討	B-5-14	ソサイエティ
白井 務	三菱電機	IEEE802.16 における Permutation による特性改善効果の評価	B-5-38	ソサイエティ
大坐 嶋 智	東京農工大	アドホックネットワークを用いたホットスポットへのユーザ誘導アーキテクチャの提案	B-7-81	総合
		歩行者移動軌跡測定による移動端末のモデル化とアドホックネットワークへの適用の一検討	B-21-17	ソサイエティ
大西 浩行	NTT	Network Mobility におけるマルチ HA 接続方式に関する一検討	B-6-28	総合
		マルチホームサイトにおける送信元アドレス選択に関する一検討	B-6-33	ソサイエティ
岡本 修一	NICT	JGNI の GMPLS ネットワークを用いた IPv6 転送実験	B-16-4	総合
表 英毅	日本テレコム	広帯域移動体通信における到来方向パスモデル	B-1-17	ソサイエティ
北村 強	NEC	フロー挙動分析に基づくアプリケーション識別手法の提案	B-6-48	ソサイエティ
工藤 理一	NTT	MIMO 伝送における直交化法を用いた簡易指向性制御法の提案	B-1-250	総合
		MIMO-OFDM 固有モード指向性制御法の共通制御による伝送特性評価	B-1-220	ソサイエティ
郷 裕一	早大	通信ソフトウェアへのテスト駆動開発適用に向けたテストケース抽出ツールの提案	B-19-2	ソサイエティ
佐方 連	東芝	高速移動環境における OFDM 通信向けフレーム構成の一検討	B-5-65	ソサイエティ
島田 雅史	三菱電機	ネットワークレーダを用いた目標識別方式～高分解能化の検討～	B-2-16	ソサイエティ
新熊 亮一	京大	コンテンツ人気度の偏りを利用した無線リソース制御方式による応答時間短縮効果	B-5-144	ソサイエティ
鈴木 俊博	NTT ドコモ	キャリアアドホックネットワークシステムの実装評価	B-21-4	ソサイエティ
鈴木 巨生	三菱電機	パースト光増幅 GE-PON システムの検討	B-10-61	ソサイエティ
須藤 薫	東工大	2 層誘電体充填ラジアル導波路上スロットペア結合の解析	B-1-213	総合
		全スロット配列解析を用いた螺旋配列ラジアルラインスロットアンテナの周方向特性の検討	B-1-104	ソサイエティ
田中 聡寛	NEC	誤り率モニタを利用した量子暗号鍵配布システムの監視制御方法	B-10-85	ソサイエティ
田中 憲光	千葉大	簡易衛星追尾型 2 周波共用三角形パッチアレーアンテナの衛星通信模擬実験	B-1-182	総合
		円偏波扇形パッチアンテナの基本特性	B-1-66	ソサイエティ
鶴田 誠	東芝	高速フェージング伝送路における地上デジタル放送の移動受信特性に関する一検討	B-1-265	総合
徳安 朋浩	NTT	無線 LAN 基地局探索システムに関する一検討	B-5-218	総合
		無線 LAN における遅延量推定方法の一検討	B-5-177	ソサイエティ
長谷川洋平	NEC	網品質劣化箇所推定における試験フロー集合決定方式の評価	B-11-7	ソサイエティ
林田 章吾	防衛大	無限地板上に設置したスリット付折返しモノポールアンテナの特性	B-1-60	総合
		携帯端末用平衡給電型内蔵半折返しダイポールアンテナ	B-1-143	ソサイエティ
松垣 誠	東芝	整合周波数可変アンテナの高効率メカニズムの一検討	B-1-35	ソサイエティ
東中 雅嗣	三菱電機	フレーム非同期同一チャネル干渉を抑制する単一アンテナ干渉除去方式	B-5-116	総合
		MIMO システムにおける同一チャネル干渉除去に関する検討	B-5-13	ソサイエティ

樋口 啓介	ATR	エスパアンテナを用いた IEEE802.15.4 秘密鍵共有システム：システム提案と実証実験	B-5-185	総合
樋口 淳一	NEC	モジュラー型スイッチにおける分散スケジューラの性能評価	B-6-81	ソサイエティ
平田 晃正	阪大	2.45GHz 帯マイクロ波曝露による家兎眼温度上昇に関する検討 マイクロ波曝露による人体内温度上昇のグリーン関数を用いた考察	B-4-13 B-4-55	総合 ソサイエティ
福岡 正機	KDDI 研	移動体ネットワークにおける同報型サービスへの無線リソース配分に関する一検討	B-7-79	総合
古谷 博幸	NTT 東日本	非接触型電圧センサの測定誤差改善方法の提案	B-4-68	総合
堀 賢治	KDDI 研	大規模 IP ルータ網遠隔管理のための一時的 IP 自動構成方式の提案	B-7-59	ソサイエティ
本庄 勝	KDDI 研	個人環境プロファイルと連携した実空間情報配信モデルの提案とその検討	B-20-4	総合
松井 宗大	NTT	自律適応制御技術を用いたソフトウェア無線基地局の検討 (3)一適応アクセス制御方式の特性評価一	B-17-8	ソサイエティ
森 慎一	NTT ドコモ	共通パイロット電力制御による WCDMA 無線セル自律形成法 隣接セル状況を利用した共通パイロット電力制御による無線セル自律形成法	B-5-8 B-5-106	総合 ソサイエティ
森本 彰人	NTT ドコモ	下りリンクブロードバンドマルチパスフェージングチャネルにおける OFDM と DS-CDMA パケット無線アクセスのキャパシティ特性比較	B-5-43	総合
山田 暁	NTT ドコモ	EDCA Based Congestion Control Method for WLAN Mesh Networks	B-5-151	ソサイエティ
山田 渉	NTT	屋内見通し内環境における相関行列特性 屋外見通し内 MIMO 通信における指向性アンテナの適用効果	ABS-1-2 B-1-244	総合 ソサイエティ
吉田 富彦	NTT	ヌル制御型低回り込みギャップフィルラの屋外実験結果 多地点広域情報集信システムにおける観測局の高効率収容手法の検討	B-3-15 B-3-12	総合 ソサイエティ

[C. エレクトロニクス]: 16 名

(五十音順)

受賞候補者	所属	題名	講演番号	大会名
井田 輝彦	防衛大	円柱物体による散乱界の時間領域における近似解析 円柱による散乱界解析における修正 UTD	C-1-28 CS-1-4	総合 ソサイエティ
猪原 涼	KDDI 研	全光 CS-RZ 波長変換器	C-4-41	ソサイエティ
遠藤 貴雄	三菱電機	超薄型背面投影ディスプレイ用フレネルレンズスクリーン	C-9-5	ソサイエティ
大塚 浩志	三菱電機	電荷保存則を考慮した FET 大信号モデルの検討	C-2-20	ソサイエティ
甲斐 貴文	東工大	ミリ波メディアコンバータ用ポスト壁導波路の同軸給電	C-2-24	総合
藤山千恵美	三菱電機	0.8-5.2GHz 帯マルチバンド/マルチモードダイレクトコンバージョン受信機用 SiGe-MMIC Q-MIX	C-2-47	総合
木村 直樹	フジクラ	α -サイアロン蛍光体を用いた高効率電球色 LED	C-9-1	総合
齊藤 雅之	三菱電機	非対称テーパー結合線路形方向性結合器の広帯域化	C-2-59	ソサイエティ
酒井 泰二	青学大	集光レンズアンテナを用いた自由空間透過法による複素誘電率テンソルの簡易測定と誤差検討	CS-9-2	ソサイエティ

中島 史人	NTT	モード同期レーザと符号化用 EA 変調器をモノリシック集積した光ミリ波送信器	C-14-9	ソサイエティ
波木井秀充	電通大	Nb 集積回路内の磁気シールド層による相互インダクタンス低減効果	C-8-3	ソサイエティ
橋詰 泰彰	NTT	16 連タップ集積可変光減衰器	C-3-101	ソサイエティ
長谷川淳一	古河電工	メトロ/アクセス系向け小型/超低損失 200GHz-16ch アサーマル AWG モジュール	C-3-23	総合
廣田 栄伸	NTT	PLC ハイブリット集積技術を用いた 3 波 WDM 対応光送受信モジュール	C-3-91	ソサイエティ
松永 直子	山口大	平面型 2 次元負屈折率媒質について	CS-2-3	総合
水野 隆之	NTT	ITU グリッドに完全整合したマッシュベンダ干渉計 位相制御カプラを用いた CWDM 用インタリーブ・フィルタ	C-3-84 C-3-60	総合 ソサイエティ

[D. 情報・システム]: 8 名

(五十音順)

受賞候補者	所属	題名	講演番号	大会名
出原 優一	三菱電機	符号化情報を利用した低レートビデオの時間解像度改善に関する一検討	D-11-4	総合
大西 隆之	NTT	外部同期クロックを用いた HDTV MPEG-2 over IP 伝送装置	D-11-76	総合
田口 安則	東芝	ヒストグラム変換を利用した背景差分法	D-12-58	総合
田口 裕一	東大	自由視点画像合成に基づく光線空間符号化方式の基礎検討	D-11-144	総合
浜口 斉周	NHK	演出スタイルシートを用いたテレビ番組制作ツールの開発	D-9-9	総合
日高 章理	筑波大	矩形特徴と AdaBoost を用いた顔検出器における弱識別器のランダムネスと汎化性能	D-12-101	総合
松村 篤志	KDDI 研	MPEG4-AVC/H.264 における画質変動の抑制を目的とした量子化パラメータ選択方式	D-11-59	総合
村上 智一	日立	H.264/AVC Baseline Profile における方向依存性を利用した拡張符号化方式	D-11-49	総合

5. 関連学術団体との連携に関する事項 (定款 第 6 条チ)

平成 17 年度は、下記のほかに 268 件の協賛・後援等を行った。

- ・シンポジウム「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」
(平成 17 年 8 月 22 日, 23 日 科学技術振興機構等主催)
- ・情報セキュリティ学際シンポジウム
(平成 17 年 12 月 23 日～25 日 情報セキュリティ大学院大学等主催)

6. 先端オープン講座に関する事項 (定款 第 6 条ロ)

平成 17 年度は、前年度に引き続き厳しい業務環境が続いており、受講者確保のため、①受講者の負担軽減と選択幅を広げ、タイムリーな受講を促進するため、5 回コースを主体とするコース編成を順次実施。② CPD との連携に向け関連学協会と協賛し、周知・宣伝を図った。③新設コースによる新規受講者の開拓。④継続的受講を推進するため初回と 2 回以上で受講料に差を持たせた。⑤継続的な新聞雑誌への記事掲載の働きかけ。支出面では、受講人数に対応した会場の選択、印刷単価の見直し、少人数コースの開催中止等を行い経

費節減に努めた。春季講座（5月14日～7月9日）と秋季講座（10月1日～12月3日）を各週土曜日・10週間（30時間）にわたり開講し（春・秋季講座とも5週間（15時間）の講座も開講）、受講状況は次のとおりであった。

〔春季講座〕

コース別	受講者数 ():内団体受講数
A:情報通信ネットワーク	15名(7)
B:システムLSI設計技術	10名(1)
Ba:システムLSI上位設計技術	1名(1)
C1:ユビキタスコンピューティングを実現するソフトウェア技術	15名(1)
C2:組込型(embedded)コンピュータのソフトウェア技術	15名(1)
D:情報通信プロトコル	7名(6)
Da:情報通信応用プロトコル	7名(1)
E:オブジェクト指向とJava技術	11名
F:セキュリティ技術	14名(2)
計	95名

(ただし、C1・C2・Da・E・Fコースは全5回の講座)

〔秋季講座〕

コース別	受講者数 ():内団体受講数
A:情報通信ネットワーク	23名(5)
C2:組込型(embedded)コンピュータのソフトウェア技術	16名(1)
F:セキュリティ技術	11名(1)
計	50名

(注) 秋季は3コースのみ開講
(ただし、C2・Fコースは全5回の講座)

7. 専門講習会に関する事項（定款 第6条口）

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題目	開催年月日	参加者数	場所
北海道	2D/3D映像処理	H17.11.21	39	北海道大学
東北	創造性を育む新しい工学・技術者教育を探る	H17.11.18	145	仙台ガーデンパレス
北陸	C言語によるVLSI設計・・・ Handel-CとDKによるHW/SW強調設計・・・	H17.4.26 4.27	16	金沢大学
東海	ロボットとIT技術—ロボットとのコミュニケーション	H18.2.1	35	ルブラ王山
関西	ブログ技術の最新動向	H17.10.11	41	中央電気倶楽部
四国	① フリーソフトで始める・親しむPC—UNIX—Windowsと違う世界に触れてみよう！	H17.10.8 10.15	8	詫間電波工業高等専門学校
	② 無償CADツールを用いたICの設計	H18.2.24	9	徳島大学
九州	エンベデッドソフトウェアの新たな展開、その技術と課題—携帯電話、そしてクルマ	H17.12.7	75	福岡システムLSI総合開発センター

計8回

8. 普及啓発活動に関する事項（定款 第6条口、へ）

小・中・高校生を対象とした科学教室

子供の科学離れを防ぐための活動の一環としてこれまで行ってきたが、17年度も小・中・高校生の科学教室を推進

した。

会員及び関連企業の協力の下に、各支部と連携して次のとおり活動範囲等を拡大しながら実施した。

また、本活動を支えている「子供の科学教室基金」を長期的、健全に維持するため、14年度から開始した募金活動を継続し、17年度は610名（個人会員）から約298万円の募金協力を得て基金に繰り入れた。

題目・講師(敬称略)	開催年月	参加数
科学実験教室：科学技術館会場 テーマ：アンテナの不思議 実験：アンテナのしくみはどうなっているか確かめよう！ 講師：羽石 操・木村雄一・斉藤作義（埼玉大） 共催支部：東京	H17.4.16	16名
体験教室：科学技術館会場 テーマ：「コンピュータ・プログラミングを自作してみよう！」 講師：浅見 徹・山崎克之（KDDI 研）、野々山紫（NTT-AT） 共催支部：東京	H17.5.3	19名
科学教室：兵庫県立大会場 テーマ：不思議いっぱい科学の世界 講演・体験： 1. アナログ？それともデジタル？ 2. パソコンの頭の中はどうなっているの？—パソコンのしくみ 3. 楽しいデジタルの世界—音と画像の信号処理のはなし— 4. コンピュータグラフィックス作成に挑戦してみよう！ 講師：藤井信生（東工大）、白川 功（兵庫県立大）、石井六哉（横浜国大）、牧野光則（中大） 共催支部：関西	H17.5.21	89名
科学実験教室：科学技術館会場 テーマ：音の正体 講師：大賀寿郎（芝浦工大） 共催支部：東京	H17.6.5	10名
出前講演：日本科学未来館会場 テーマ：未来の携帯電話—ケイタイはどうなるの？— 講師：中嶋信生（電通大） 共催支部：東京	H17.6.11	43名
見学会：NHK放送技術研究所 講演：ゆっくり再生できるテレビの仕組み、飛び出して見えるテレビの仕組み 講師：榎並和雅・丸山裕孝・奥井誠人（NHK） 共催支部：東京	H17.6.25	68名
科学教室：日本女子大会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講演・体験： (1) 光通信ってなあに？—アナログ通信とデジタル通信— (2) 光が創る3次元の世界—ホログラフィー— 講師：今井 元・小館香椎子（日本女子大） 共催支部：東京	H17.7.16	64名
見学会：NTT武蔵野研究開発センタ テーマ：通信のひみつと最先端技術 講演：通信のひみつ—最新の通信はどうなっているか見てみよう！ 講師：池田博昌（東京情報大） 共催支部：東京	H17.7.26	90名
科学体験教室：大阪大学基礎工学部会場 テーマ：大阪大学基礎工学部システム科学科一日体験入学特別講義：システム工学とは 講師：潮 俊光（阪大） 体験教室：8項目の実習から2つを当日選択して実習 (1) ゲームで学ぶオペレーションズ・リサーチ (2) 動的システムのシミュレーション (3) モーフィングによる顔合成 (4) ロボットの動作生成 (5) 画像処理で遊んでみよう！ (6) “声”を作ってみよう (7) 事例に基づくWebページデザイン (8) 計算ができる回路を作ってみよう	H17.8.1	50名

見学会：NTT データ霞ヶ関プレゼンテーションスペース INFORUM 共催支部：東京	H17.8.4	11名
見学会：東京工業大学 テーマ：コンピュータと話をしてみよう！ 講師：古井貞照・篠田浩一（東工大） 共催支部：東京	H17.8.9	29名
見学会：日本テレコムネットワークサービスセンター テーマ：電話のしくみ 講師：寺田浩詔・笠 史郎（日本テレコム） 共催支部：東京	H17.8.17	11名
見学会：富士通川崎工場と富士通研究所 テーマ：自分を見分ける自分の生体情報のしくみ —生体情報を使った本人認証技術と社会での役割— 講師：佐々木繁・森原 隆・塩原守人・渡辺正規（富士通研） 共催支部：東京	H17.8.25	22名
見学会：パナソニックセンター テーマ：ユビキタスネットワークの世界を体験してみよう！ ——最先端技術を使って恐竜化石研究の体験—— 共催支部：東京	H17.8.26	13名
電子工作教室：秋田県立大会場 テーマ：デジタルタイマーを作り時間を知ろう!! 講師：阿部敏士、高山正和、戸花照雄（秋田県立大） 共催支部：東北	H17.10.23	38名
科学教室：中央大会会場 テーマ：安心して生活できる社会をめざして 特別講演：ひみつの話 講師：趙 晋輝（中大） 体験教室：大学ってどんなところかのぞいてみよう！ 共催支部：東京	H17.11.3	41名
出前科学教室：日本科学未来館会場 テーマ：アナログとデジタルの世界 講師：藤井信生（東工大）、石井六哉（横浜国大） 共催支部：東京	H17.11.26	13名
見学会：東京大学工学部電子情報系・VDEC テーマ：ものを見て・感じて・理解する LSI 認識システム 講師：柴田 直・三田吉郎（東大） 共催支部：東京	H17.12.17	41名
科学教室：沖縄会場 テーマ：不思議いっぱい科学の世界 講演・体験：1. 沖縄の子供達へ 2. 技術の歴史 3. 通信の秘密を探る—携帯電話のしくみを勉強しよう— 4. 楽しいデジタルの世界—音と画像の信号処理のはなし— 5. コンピュータがコンピュータを作る話 6. インターネットってどうなっているの？—ホームページ作成に挑戦してみよう！— 7. IT なんでも相談室（保護者対象） 講師：翁長健治（デジタル社会総合研）、篠田庄司（中大）、池田博昌（東京情報大）、石井六哉（横浜国大）、柴山修治（中大）、小山正樹（奈良先端大）、親泊信雄（親子ネット） 司 会：白川 功（兵庫県立大） 共催支部：九州	H18.3.4	63名

計19回 731名

9. 学生事業に関する事項（定款 第6条へ，チ）

9.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成17年7月号：平成16年度各支部学生会事業報告
- ・平成18年2月号：各支部・学生ランチ(Student Branch) 学生員の感想

9.2 学生員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のためにPR用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会申込」をそれぞれ配布した。

また、各支部において学生員増強基金を利用した学生員勧

誘、学生ランチ(Student Branch)設置校募集が行われた。

9.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を10,500部作成し、年2回学生員及び各支部へ配布した。特に卒業（修了）予定の学生に対して会員資格手続きの早期連絡、正員に昇格する際の会費減額、会費未納者への支払勧奨を1月から毎月行い、会員継続を要請した。

9.4 学生ランチ(Student Branch)について

平成17年度は、設置校申請9校（会津大、慶大、東工大、都立高専、東京理科大、徳島大、豊橋技科大、名大、早大）で活動を行った。

また、ホームページ「学生のひろば」に学生ランチ試行設置校の活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、学生ランチ設置校の拡大を図った。

今年度から支部活動として実施するため、設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また、各支部学生ランチ設置校の活動については、学生会連絡会で報告し、各支部学生が自主的に参加し、運営していける環境づくりを検討する。申請書等については、10月初旬に、各支部に送付することとし、12月20日を申請締切日とした。

10. 男女共同参画に関する事項（定款 第6条チ）

平成15年7月理事会において「男女共同参画委員会（荒川薫委員長）」の設立が承認され、工学系の学会が連携している「男女共同参画学協会連絡会」に加盟し、女性研究者が快適となることの活動を開始した。会誌17年11月号「特集：女性会員に期待する」の発行に協力した。また、18年3月の総合大会において託児施設を開設した。

11. 検討部会に関する事項（定款 第6条チ）

11.1 技術者教育認定制度について

「認定企画実施委員会(APC)：篠田庄司委員長」において、JABEE（日本技術者教育認定機構）及び関連学会と連携をとりながら審査を実施するとともに審査員の養成（JABEE 審査員養成研修会に参加、及び自主研修会を2回実施；参加者合わせて約120名）を開催した。

JABEEの最新の話題に関するシンポジウム（18年3月総合大会特別企画）を開催した。

11.2 技術者の継続的専門能力開発について

「CPD(Continuing Professional Development) 部会：持田侑宏部会長」は、本会の技術者教育への取組みをJABEE活動とともにCPD活動を車の両輪として形成するとの位置付けから設置され、日本工学会下のPDE(Professional Development of Engineers)協議会と連携して活動を進めている。本年度は、電気学会、情報処理学会と協力して、「電気電子・情報系CPD協議会」を立ち上げ、共同で協議を進め、新しい会員サービスを早期に実現するため、次年度実施に向けCPDトライアルの検討を進めている。関連記事 <http://www.ieice.org/jpn/cpd/index.html> に掲載。

11.3 他学会との連携について

「電気・情報関連学会連絡協議会」（本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会）において各学会が直面している問題（電子出版など）について話し合いを行っている。

11.4 卓越技術データベースの作成について

電気・情報関連5学会連携による平成15年度科学研究費

補助金データベース作成活動を開始した。1980年代を中心に世界のトップレベルに達した我が国の卓越技術の研究開発の歩みをデジタルアーカイブとして蓄積する。5年間で3,000件（うち、本学会分は1,200件）の卓越した日本の技術のデータを収集する。

12. 会員に関する事項（定款 第3章）

12.1 名誉員の推薦

甘利 俊一（理化学研）
伊賀 健一（学術振興会）
板倉 文忠（名城大）
稲垣 康善（愛知県立大）
笠原 正雄（大阪学院大）
田崎 三郎（尾道大）

を定款第7条イ項により名誉員に推薦した。

12.2 会員の現況

会員増強委員会では、特に除籍会員引止め施策として、(1)除籍者の機関誌送付費用の経費軽減と、会費の安定確保のため、19年度会費から前納制に移行、(2)会費徴収を確実にするため、銀行自動引き落としの奨励及びこの制度の定着のため会費を5%割引の実施。

継続施策として、(1)学生員から正員への昇格者に会費の半額免除等をより明確に周知する等、会員の継続を図った。(2)個人会員の滞納者については、メールでの会費督促回数を増やし、支払勧奨を行うとともに、役員・評議員から、所属の滞納会員に連絡をとった。また、学生員についても各大学の正員、各支部学生会顧問から連絡を行うなど、会費滞納者へのきめ細かい対応等を行った。(3)学生員の増強と学生員から正員への定着率の増加として、学生ランチ(Student Branch)の設置校を募集し、今年度は9校で活動が行われた。(4)正員に昇格した学生員に「正員証」の発送。

(1) 会員数は次のとおりである。

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成16年度 末会員数 ()内はフェ ロー会員数	80 (15)	29,378 (463)	5,221	266	365	252	35,562 (478)
平成17年度 末会員数 ()内はフェ ロー会員数	81 (14)	28,623 (511)	5,345	190	364	248	34,851 (525)
前年度末との差	1 (-1)	-755 (48)	124	-76	-1	-4	-711 (47)

(注) 名誉員の、高木昇先生は17年5月28日に、庄司茂樹先生は17年10月14日に、松本正先生は17年11月13日に、森田清先生は17年12月14日に逝去された。

(2) 各支部における会員数は次のとおりである。

()内はフェロー会員数

支部/ 会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計	前年度差
北海道	0	467 (9)	203	0	5	4	679 (9)	-57
東北	8	970 (33)	226	0	14	4	1,222 (33)	-57
東京	57 (8)	17,281 (313)	1,858	2	209	164	19,571 (321)	-739
信越	0	484 (5)	119	0	14	11	628 (5)	-28

東海	2 (1)	1,787 (31)	417	0	32	21	2,259 (32)	-103
北陸	0	471 (6)	141	0	9	1	622 (6)	-39
関西	10 (3)	3,703 (69)	787	2	49	33	4,584 (72)	-89
中国	1 (1)	826 (14)	266	0	13	4	1,110 (15)	-10
四国	0 (1)	428 (6)	241	0	6	2	677 (7)	20
九州	0	1,179 (21)	479	1	12	4	1,675 (21)	-36
海外在住	3	180 (3)	12	0	1	0	196 (3)	-7
Overseas	0	847 (1)	596	185	0	0	1,628 (1)	434
合計	81 (14)	28,623 (511)	5,345	190	364	248	34,851 (525)	-711 (47)

II. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始11年目にあたる平成17年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を4回開催した。

◎ 基礎・境界ソサイエティ

基礎・境界ソサイエティは、本学会関連の研究分野のうちでも境界領域や基礎領域及び新しい領域での研究活動を支援し、推進するという重要な役割を担っている。本ソサイエティは他ソサイエティと同列に存在しているものの、その理念、使命は特別である。本ソサイエティの運営にあたっては、その存在意義を常に深く意識し、独自の価値を持ったソサイエティづくりを目指した活動を行うべく、引き続き努力を重ねている。

主な事業内容を以下に示す。

(1) 研究会活動の活性化

ソサイエティ活性化ワーキンググループにおける議論を取り入れ、ソサイエティの基本的な活動である研究会の活性化事業に取り組んでいる。今年度は、その議論を受けて、研究会活動費の傾斜配分を実施した。これは各研究会に自助努力の意識を持たせることを目的にして、一律配分額10万円に前年度の技術研究報告の売上げの1パーセントを加え配分額とするものである。この活動実績による研究会活動費の配分は、これから実施される予定のソサイエティの独立採算化への布石という意味合いも有する。また、次年度よりソサイエティ事業費の中にソサイエティ活性化経費を設け、ソサイエティ活性化のための事業を提案ベースで募集することとした。

(2) ソサイエティ大会・総合大会企画

ソサイエティ大会では、過去5年間で最大規模となる一般講演とシンポジウムを合わせて319件の発表が行われた。また、ソサイエティ特別企画として、「サッポロバレー発eシルクロード」と題した講演が一般無料公開で行われ、大会の目玉とされた。総合大会では、計400件の講演、パネル討論、チュートリアルなど10の企画が予定されており、本ソサイエティ事業分野の活発な活動が伺える。

(3) 論文誌の質的向上及び拡販

論文誌は質の向上・時間の短縮が本質的に重要であり、こ

れによる若手会員・海外会員の獲得は学会の基本である。魅力ある論文誌を目指して、英文論文誌は平成14年度より英文クオリティチェックを導入している。また、昨年度学会Webページに掲載した英文論文作成に慣れていない会員へのサポートのための英文論文書き方テキストの宣伝活動を行った。更に、これまでにない分野の特集を企画したので、英文論文誌拡販や海外会員獲得への効果が期待できる。また、ソサイエティ編集会議で選奨規程を定め、編集活動に関する活動のうち、該当担務に関して顕著なる貢献のある方を表彰した。

(4) 留学生組織の構築

学会Webに掲載されている海外からの留学生をターゲットとしたホームページが十分には機能しているとはいえないため、来年度の刷新を目標に、現在のホームページの問題点を調査した。これを基に、留学生の活動を助け、留学生が帰国後も会員として学会にとどまり利用できるようなホームページとなるような刷新計画案を作成した。

(5) ソサイエティ内情報管理システムの構築

平成16年度に基礎的検討がスタートしたソサイエティの効率的な運営を目指した情報管理システムの構築について、本年度は、研究専門委員会向けの連絡事項、報告資料を一覧できるホームページを作成し、ソサイエティと研究専門委員間の効率的な情報管理を実現した。また、これまで活用されていなかったソサイエティ全体のメーリングリストの運営規則を作成した。

(6) その他

各種の学術研究会や国際会議などの共催・協賛など活発な事業を行った。

◎ 通信ソサイエティ

本年度は、平成18年度からの「ソサイエティ独立採算化」の本格実施に向け、独立採算運営の試行を開始した。本試行を通じて、ソサイエティ活性化への手ごたえと、それに伴う財政健全化への兆しを感じる事ができた。

具体的には、ソサイエティ活動を機動的に行うための新体制；執行委員会、研専運営会議、編集会議を立ち上げるとともに、会員サービスを充実し、財務基盤の強化を図るための各種新施策の議論、ソサイエティの財務状況を監視するための4半期ごとの収支状況報告などを実施した。

(1) ソサイエティ新体制の立上げと運営

昨年度より議論した新体制について各組織の準備WGを立ち上げ、必要な規程類を整備し、年度当初からスムーズな新体制への移行を実現した。現在は、本新体制により、収支改善とソサイエティの活性化をにらんだソサイエティ運営を順調に実施している。

- ・執行委員会：ソサイエティの最高意思決定機関として、会長、次期会長、ソサイエティ編集長、副会長2名、常任幹事とアドホック幹事よりなる22名体制にてソサイエティの共通事項を議論。
- ・研専運営会議：研専担当副会長をはじめとする8名の議長団、及び各研究専門委員会代表よりなり、研専運営と大会に関する運営を責任分担。
- ・編集会議：ソサイエティ編集長、戦略／渉外／庶務担当の副編集長及び、和文・英文編集委員長・副委員長10名体制で、論文誌に関する事項を責任分担。

(2) 会員サービス議論

前年度に引き続き、次期会長の下で、特に会員サービス議

論に焦点を当てた独立採算タスクフォースを継続した。来年度予算に独立採算化資金を確保するとともに、具体的な施策として、通ソ新マガジンの発刊、企業会員やOBなどの会員交流を活性化するためのコミュニティサービスの実現などに向けて、議論及び準備を実施中である。

(3) 財務管理

独立採算化に際しては、ソサイエティ内での責任ある財務管理が必須となる。このため、昨年度より実施した研究専門委員会の会計明確化の定着に加え、毎月の収支状況を取りまとめ、4半期ごとに収支報告を実施することにより、常にソサイエティの財務状況を把握できる運用を実施した。

また、従来と同等のソサイエティ会費分の割り振り、ソサイエティ繰越金を用いた新施策の実施など、従来の予算計画スキームでスムーズに独立採算化へ移行する方法を本部と調整するとともに、事務局とも(仮想的な)契約ベースの稼動見積もりに基づく予算費用計上を実施した。

なお、財務関連を含む独立採算化にて改定が必要となる共通規程についても、企画室、会計理事、他ソサイエティと協議して改訂する運びとなった。

(4) 国際関連

ドイツのVDE/ITGとのシスターソサイエティ協定を締結し、本協定の下、相互協力形態や会員サービスの具体化を進めることとなった。また、昨年度に引き続き、通ソメーリングリスト、及びIEEE ComSocの双方のメーリングリストを使った会員サービス(CFPや論文誌の目次の配信)、Global News Letterの発行を継続して実施した。

(5) 通ソホームページの充実化

通ソホームページ管理連絡会を設立し、新体制に基づくホームページの拡充を実施した。また、新施策としてホームページへのバナー広告掲載を議論し、本部広報委員会での承認を得て実施する運びとした。

(6) 評価委員会活動

昨年度に引き続き、評価委員会により平成17年度の研究会活動評価アンケートを実施し、研専運営会議における研究会活動へのフィードバックを行った。来年度は、予算措置により一般会員の声を吸い上げるためのアンケート実施など、会員サービス向上に向けた取組みとして継続していく予定である。

(7) ソサイエティ大会、総合大会について

本年度から、通信ソサイエティ活動功労賞贈呈に対して優良査読者に対する表彰枠を拡大するとともに、退任研専委員長に対するソサイエティ功労顕彰状を新設した。総合大会については、「光を用いた観測・通信技術の現状と将来」「小惑星、彗星観測の成果」の二つのソサイエティ特別企画を実施した。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

エレクトロニクスソサイエティでは、従来よりも大きな自由度と責任を持つ独立採算化を、平成18年度に試行するべく、新組織体制、財務基盤の強化、会員サービスの向上等、様々な検討を進めてきた。新組織体制においては、簡素化した運営委員会の下に執行委員会、及び企画、編集出版、研究技術各会議を設け、それぞれの活動分野の責任及び権限を明確にすることにより、比較的少人数の担当委員により機動的な運営を行う体制を整える。関連して、エレス独立採算化準備委員会において、関連ソサイエティや電子情報通信学会規程と整合性をとりつつ、各種運営規程を整備している。また、

ソサイエティ活動の活性化を念頭に、エレス活性化基金に基づく提案公募、国際会議開催の支援、及び“エレクトロニクスソサイエティ賞”、“レター論文賞”や“ELEX Best Paper Award”などの選奨制度による学生、若手研究者・技術者の顕彰を行った。また、ソサイエティのホームページの改訂・充実、各研究専門委員会ホームページの英語化も含めた改善、和文論文誌の電子化等を進めた。平成18年度に行った主な活動は以下のとおりである。

(選奨及び独自活動関係)

- (1) 第8回エレクトロニクスソサイエティ賞を、Siエレクトロニクス分野から益一哉氏(東工大)、化合物半導体及び光エレクトロニクスの分野から東盛裕一氏(NTT)、吉国裕三氏(NTT)、エレクトロニクス一般分野から大平孝氏(ATR)、豊田一彦氏(NTT)、上綱秀樹氏(NTT)の3件を選定し、授与した。
- (2) ソサイエティ活動への地道な貢献に報いるためのソサイエティ功労者表彰制度については、本年度は編集委員を含め14名の方に授与した。
- (3) 五つの関連研究会の合同大会である材料デバイスサマーミーティングを6月24日に機械振興会館において行った。榊裕之氏(東大)による招待講演を含め2セッションで開催し、盛況であった。

(論文出版及び電子化関係)

学会と会員間や、会員相互間においても迅速かつ効率的な情報提供や学術交流を可能とするため学会活動の電子化を一層普及させていきたい。

- (1) 第1回目となるELEX Best Paper Award受賞論文を選定し、筆頭著者のOzdal Boyraz氏(UCLA)にソサイエティ大会において受賞記念講演を行って頂いた。
- (2) 英文論文誌は、エレクトロニクスソサイエティ内の各研究専門委員会から募った特集の毎号化を引き続き実施し、当該研究領域の活性化とともに論文誌の差別化を図った。
- (3) 和・英論文誌が紙ベースからオンライン化されることに伴い、ニューズレターの発行回数を年4回に削減するとともに内容をより充実させ、学会誌の付録としてエレクトロニクスソサイエティ会員のみに選別して配信することにした。
- (4) エレクトロニクスソサイエティのWebサイトに関しては、昨年度に引き続き日本語及び英語の各ページの管理を行った。同サイトにおいて、Newsletterのpdf版を月1回の発行に併せて更新を行った。

(研究会活動及び国際会議活性化)

- (1) 時代の変化に対応した研究分野を構成し、新たなシーズ創出のための議論の場の構築の一環として、これまでの第一種から三種までの研究会のあり方や分野の再編などが議論された。第二種時限研究専門委員会活動において「光・エレクトロニクス・情報通信と高齢社会の医療・健康技術を考える時限研究専門委員会」の設立、及び「LSI動作解析技術時限研究専門委員会」、「マイクロ波・ミリ波フォトニクス時限研究専門委員会」、「ポリマー光回路時限研究専門委員会」、「次世代ナノ技術に関する時限研究専門委員会」、「テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会」の継続が承認された。
- (2) 国際活動支援補助金を活用し、国際会議開催支援を積極的に行い、グローバルな学会活動の促進に大いに効果を上げることができた。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティは、平成17年度において、論文誌の電子ジャーナル化を契機にD-I、D-IIを合併しD論文誌として統合した。また、時限研究会の第一種研究会への移行など積極的な研究会活動を行った。国際交流については韓国情報科学会であるKISSとの交流実質化、IEEE Computer Societyとの交流協定の継続を行った。国士館大学世田谷キャンパスで開催された総合大会ではソサイエティ企画として7件、シンポジウムとして4件及び学生ポスターセッションを企画するなど、当ソサイエティ活動の活発化に努めた。平成18年度においても更なる活発化の施策を進めていきたいと考えている。主な活動は以下のとおりである。

- (1) 情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)の開催

ISSのソサイエティ大会と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT(情報科学技術フォーラム)は、9月7日から3日間、中央大学春日キャンパスで開催された。初日の7日は台風14号接近と何かと心配事が多発したが、参加者も講演者795名、座長110名、一般聴講者839名、その他イベント講演者、招待者等の総参加者数1,822名の参加となりまずまずの参加者であった。ちなみに昨年京都で開催されたFIT2004での参加者は1,916名であった。財政面でも、心配した赤字とはならず、ほぼ成功であったといえる。メイン会場での坂村先生の特別講演には、会場が満員となる450名の参加者があり、その他多くのパネル討論や各イベント会場も多く参加者であふれていた。平成18年度は、会場を九州の福岡大学に移して行われる。

また、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチ賞を選定・表彰した。

- (2) 国外学会との交流

国際交流に尽力し、昨年度締結した韓国情報科学会(KISS)との交流の一環として、9月にソウルで開催されたKISSの全国大会において雨宮会長が招待講演を行った。また、今後両会長が交互に招待講演を行うなど更に密接な交流を行っていくことを確認した。

国際化の一層の発展を目指した、FIT INTERNATIONALの実現に向けての実施検討委員会を立ち上げて企画検討を行っている。現在、平成20年日本での開催に向けて企画の具体化を進めている。

- (3) 授賞に関する活動

ISSでは、ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。毎年9月に開催されるFIT会場において表彰式を行った。

また、多数の査読を行った査読委員等、ソサイエティの活動について顕著な功績があった、合計11名に対して情報・システムソサイエティ活動功労賞を贈呈し、FIT期間中に贈呈式を行った。

- (4) 第6回フェロー称号贈呈式及び第7回フェロー候補者推薦

上記FIT開催地の東京においてフェロー称号贈呈式を行い14名の方々に贈呈した。第7回フェローについては、推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会において審議し、ふさわしい方々をフェローノミネーション委員会へ推薦すべく、人選を進めている。

- (5) 財務基盤改善・課題

ISSソサイエティの運営自律化を視野に入れてISS財務基

盤を強化すべく、論文誌関連の経費削減、総合大会・FITの収支構造、技術研究報告予約価等について検討を行っている。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成17年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS)、ヒューマン情報処理研究会(HIP)、マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)、福祉情報工学研究会(WIT)の四つの第一種研究会、一つの第二種研究会「Web インテリジェンスとインタラクション研究会(WI2)」及び17年11月に新たに発足した第三種研究会「ヴァーバル・ノンヴァーバルコミュニケーション研究会(VNV)」の体制で活動を行った。

前年度に引き続き次の取組みを行った。HCS, HIP, MVE, WITは各々6回の研究会を開催した。WI2は本年度6月で活動期間が満期を迎えるが、本年度3回の研究会とDBWeb2005を共催するなど、活発な活動状況を踏まえて、2006年7月～2008年6月までの活動継続を承認することがHCG運営委員会で承認された。

VNVは早速11月に第1回研究会を開催し、ホームページ上でblogなどを用いて、発表資料等のアクセスを容易にする工夫を行った。

第3回ヒューマンコミュニケーション(HC)賞の選定と表彰を行った。本賞は、第一種研究会の発表から、50件に1件を目安に、各研究会で組織したHC賞審査委員会において選考を行った。本年度はHCGホームページに記載されたように、計6件の発表についてHC賞を授与することにした。

情報・システムソサイエティと情報処理学会が共催する「情報科学技術フォーラム;FIT」には、共催メンバーとして積極的に参加した。また、春の総合大会に合わせて3月22日(水)、23日(木)東京工業大学大岡山キャンパスでHCGシンポジウムを開催した。シンポジウムは、HCG傘下の第一種4研究会と第二種研究会WI2が同時開催の形で行い、75件以上の研究発表がなされた。その特別企画として、「行為の認識と生成」と題して公開シンポジウムを開催した。また、総合大会では、WI2のシンポジウム「Web Intelligence」、MVEからグループ特別企画「Needsからみたユビキタス環境構築術」、WITからパネル討論「ITが拓く近未来の福祉情報システム」の3件を展開し、積極的な関与がなされた。

HCGニューズレターを17年10月と18年2月の2回発行した。また英文論文誌(ED)において、「ヒューマンコミュニケーションII」を企画し、現在、順調に投稿論文審査や招待論文の準備がなされており、2006年6月に発行を予定している。

平成17年度の重点的な取組みとして、(1)HCG内の横断的研究活動の推進、(2)論文誌におけるHCG特集号の企画の推進、(3)情報保障の推進、(4)国際化の推進などが挙げられた。特に、情報保障WGを継続させ、昨年度作成した「学会論文作成・発表アクセシビリティガイドライン」の評価やリニューアルに取り組んだ。更に、ニューズレターの発行と合わせ、ホームページのコンテンツを充実し、学会員並びに一般へHCGの活動を積極的にPRした。

1. 大会に関する事項 (定款 第6条口)

1.1 総合大会

期日 平成17年3月21日(月)～24日(木)

会場 大阪大学豊中キャンパス (大阪府豊中市)

参加者 5,288名

講演件数

大会委員会企画	4 課題	14 講演
ソサイエティ特別企画	6 課題	31 講演
パネル討論	9 課題	43 講演
チュートリアル講演	12 課題	56 講演
一般講演		2,713 講演
シンポジウム講演		197 講演
合計		3,054 講演

懇親会 千里阪急ホテル 2階「仙寿の間」(大阪府豊中市)
参加者 212名

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの各ソサイエティが合同して開催した。なお、情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループは、ソサイエティ大会とは別に情報処理学会と合同してFIT(情報科学技術フォーラム)2005を9月7日～9日に中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)において開催した。

期日 平成17年9月20日(火)～23日(金)

会場 北海道大学札幌キャンパス(札幌市)

参加者 3,234名

懇親会 同キャンパス内 北部食堂 参加者 164名

(1) 基礎・境界ソサイエティ大会

特別企画	1 講演
パネル討論	14 講演
チュートリアル講演	11 講演
一般講演	292 講演
シンポジウム講演	27 講演
合計	345 講演

(2) 通信ソサイエティ大会

特別企画	14 講演
パネル討論	12 講演
チュートリアル講演	16 講演
一般講演	1,130 講演
シンポジウム講演	75 講演
合計	1,247 講演

(3) エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画	10 講演
パネル討論	4 講演
チュートリアル講演	7 講演
一般講演	469 講演
シンポジウム講演	64 講演
合計	554 講演

1.3 FIT2005 (第4回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同で開催した。

期日 平成17年9月7日(水)～9日(金)

会場 中央大学(東京都文京区)

参加者 1,822名

懇親会 中央大学3号館 参加者 120名

イベント企画

特別講演 1 講演

研究会提案企画 12 課題 40 講演, パネル討論 8 講演

委員会提案企画 7 課題 22 講演, パネル討論 6 講演

現地提案企画 1 課題 3 講演, パネル討論 2 講演
 船井ベストペーパー賞選考会 7 講演
 情報技術レターズ 103 講演
 一般講演 637 講演

2. 国際会議に関する事項 (定款 第6条ロ, チ)

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所	
Seventh International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS2005)	2005.04.04 ~ 08	150	60	中国・成都	CS ISS
IEEE the 21 st International Conference on Data Engineering (ICDE2005)	2005.04.05 ~ 08	約 800	67	千代田区: 学術総合センター	ISS
2005 IEEE International Symposium on Circuits and Systems (ISCAS2005)	2005.05.23 ~ 26	1,558	1,622	神戸市: 神戸国際会議場	ESS
International Conference on Dependable Systems and Networks (DSN2005)	2005.06.28 ~ 07.01	350	164	横浜市: パシフィコ横浜	ISS
The 20th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications 2005 (ITC-CSCC 2005)	2005.07.04 ~ 07	920	829	Jeju, Korea	ESS
Pacific Rim Conference on Lasers and Electro-Optics 2005/International Conference on Quantum Electronics 2005 (CLEO-PR/IQEC 2005)	2005.07.11 ~ 15	1,170	850	都市センターホテル(東京)	CS ES
2005 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP 2005)	2005.08.03 ~ 05	413	318	韓国・ソウル	CS
2005 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA 2005)	2005.10.18 ~ 21	221	192	Brugge, Belgium	ESS
6th Asia-Pacific Symposium on Information and Telecommunication Technologies (APSITT 2005)	2005.11.09 ~ 11	200	78	ミャンマー・ヤンゴン	CS
The International Society for Optical Engineering, International Symposium on Optomechatronic Technologies 2005 (SPIE-ISOT 2005)	2005.12.05 ~ 07	190	150	札幌コンベンションセンター	ES
11th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2006)	2006.1.24 ~ 27	759	182	横浜市: パシフィコ横浜	ESS

3. 出版に関する事項 (定款 第6条イ)

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に5種類^(注)をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は8,650ページである。

分類 分冊	論文	レター	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	114	43	—	157	3	82,800
	1,120	221	165	1,506		
B	177	37	—	214	5	143,500
	1,886	154	176	2,216		
C	110	44	—	154	3	90,200
	967	141	180	1,288		
D-I	139	26	—	165	4	86,600
	1,526	118	190	1,834		

D-II	157	18	—	175	1	69,600
	1,596	90	120	1,806		
計	697	168	—	865	16	472,700
	7,095	724	831	8,650		

*その他: 総目次78ページ, 巻頭言25ページ, 英文誌紹介151ページ, 特集号募集案内等付物577ページ

(注) D-I, D-II は平成18年1月号から合冊しD分冊となった。1月号以降はD-Iに含めた。

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に4種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は14,594ページである。

分類 分冊	Paper	Letter	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	368	124	—	492	15	29,900
	3,141	516	221	3,878		
B	411	202	—	613	12	38,800
	3,535	805	194	4,534		
C	296	52	—	348	15	31,800
	2,139	185	210	2,534		
D	344	78	—	422	13	29,100
	3,076	335	237	3,648		
計	1,419	456	—	1,875	55	129,600
	11,891	1,841	862	14,594		

*その他: 総目次148ページ, Abstract 212ページ, Foreword 72ページ, 特集号募集案内等付物430ページ

3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは, Webを用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称ELEX)」(月2回発行)に88件, 514ページを掲載した。また, 平成17年の掲載論文を収録したCD-ROMをエレクトロニクスソサイエティ和・英論文誌平成18年3月号に挟み込むと同時に販売・宣伝用に800枚作成した。

3.4 ニュースレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター, ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおり発行した。

基礎・境界ソサイエティ	4回	16ページ
通信ソサイエティ	4回	80ページ
エレクトロニクスソサイエティ	12回	48ページ
情報・システムソサイエティ	5回	88ページ
ヒューマンコミュニケーショングループ	2回	8ページ

3.5 論文誌 CD-ROM の発行

和・英論文誌平成17年の年間目次, 分野別索引, 著者索引, キーワード索引を閲覧することができるCD-ROMを下記のとおり発行した。

和文誌 A	150枚	英文誌 EA	150枚
B	150枚	EB	150枚
C	150枚	EC	150枚
D	150枚	ED	150枚

3.6 IEICE Transactions Online

5月の総会で電子情報通信学会規則を変更し, 和・英論文誌の機関誌を冊子体からオンライン版とした。これを受けて, 個人の会員に対しては, 平成18年4月から有料制に移行することとなり, 従来の年会費で, 所属するソサイエティが発

行する和・英両方の論文を閲覧できること、冊子体についてはオプション価格とすることが決定した。特殊員に対してはサイトライセンスを導入する方向で検討を行った。

4. 選奨に関する事項（定款 第6条ホ、へ）

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 通信ソサイエティ英語セッション奨励賞

論文名	著者名(所属)
Lightweight Discrete Utilization Jitter Estimation	Wayman TAN (早大)
Frequency-domain Differential Detection and Equalization of Differentially Encoded DS-CDMA Signals	Le LIU (東北大)

以上2編

4.2 エレクトロニクスソサイエティ賞

分野	業績	貢献者(所属)
第1分野	Si CMOS 集積回路における GHz 差動伝送線路配線に関する研究	益 一哉 (東工大)
第2分野	波長可変・単一モードレーザの先駆的研究と実用化	東盛 裕一 (NTT) 吉国 裕三 (NTT)
第3分野	衛星搭載用ウェファスケール GaAs MMIC の開発	大平 孝 (ATR) 豊田 一彦 (NTT) 上綱 秀樹 (NTT)

以上3件

4.3 エレクトロニクスレター論文賞

論文名	著者名(所属)
フォトニック結晶を用いた並列処理型エリブソメータ	佐々木良裕 (東北大) 佐藤 尚 (フォトニクラティス) 橋本 直樹 (JST) 川上彰二郎 (東北大)

以上1件

4.4 ELEX Best Paper Award

論文名	著者名(所属)
Demonstration of 11dB fiber-to-fiber gain in a silicon Raman amplifier	Ozdal Boyraz (UCLA) Bahram Jalali (UCLA)

以上1件

4.5 情報・システムソサイエティ論文賞

論文名	著者名(所属)
【サーベイ論文】 バースト誤り通信路に適した反復復号法	和田山 正 (名工大)
【連作論文】 音声翻訳システムと人間との比較による音声翻訳能力評価手法の提案と比較実験	菅谷史昭, 竹澤寿幸 (以上 ATR) 横尾昭男 (NTT) 山本誠一 (ATR)
コーパスベース音声翻訳用評価セット選択方法の提案	菅谷史昭, 安田志志, 山本誠一 (以上 ATR)
An Objective Method for Evaluating Speech Translation System : Using a Second Language Learner's Corpus	Keiji YASUDA (ATR) Fumiaki SUGAYA (KDDI 研) Toshiyuki TAKEZAWA, Genichiro KIKUI, Seiichi YAMAMOTO (以上 ATR) Masuzo YANAGIDA (同志社大)

以上2編

4.6 FIT の各賞

(情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業績	貢献者(所属)
TRON 構想の提唱、実現によるわが国独自のコンピュータアーキテクチャの開拓、電腦社会の構図の具体化に顕著な貢献	坂村 健 (東大)

以上1件

(2) 船井ベストペーパー賞

講演題目	受賞者(所属)
携帯電話用プロセッサで動作する大語彙連続音声認識の並列処理	石川晋也, 山端 潔, 磯谷亮輔, 奥村明俊 (以上 NEC)
仮想音環境のための頭部伝達関数コーパス	渡邊貫治 (山梨大) 岩谷幸雄, 行場次朗, 鈴木陽一 (以上東北大)
表情譜：タイミング構造に基づく表情の記述・生成・認識	川嶋宏彰, 西山正紘, 松山隆司 (以上京大)

以上3編

(3) FIT 論文賞

講演題目	受賞者(所属)
ひとつの高適合文書を高精度に検索するタスクのための評価指標	酒井哲也 (東芝)
テンス・アスペクト・モダリティの翻訳における機械翻訳システムの誤りの調査	村田真樹, 内元清貴 (以上 NICT) 馬 青 (龍谷大/NICT) 金丸敏幸 (京大/NICT) 井佐原 均 (NICT)
生成・識別ハイブリッドモデルに基づく半教師あり学習	藤野昭典, 上田修功, 斉藤和巳 (以上 NTT)
拡張現実感のための実画像のぼけ推定に基づく画像合成手法	奥村文洋, 神原誠之, 横矢直和 (奈良先端大)

以上4編

(4) FIT ヤングリサーチャー賞

候補者名	所属	講演番号	講演タイトル
新井雅之	首都大	C-021	畳込み圧縮器における X マスク確率の評価に関する一考察
安藤博士	広島大	I-007	見え方に基づいた顔認識手法のための画像前処理
梶 克彦	名大	LG-001	コミュニケーションメディアとしてのプレイリストを目指して
帷子京市郎	東大	LI-004	レーザセンサを用いた歩行者通過人数の自動計測手法
河合由起子	情報通信研究機構	LD-001	印象と興味に基づくユーザ選好のモデル化とニュースポータルサイトへの応用
澁谷長史	横浜国大	F-004	複素値関数を用いた Q-Learning の基礎的検討
清水智行	KDDI 研	J-073	グローバル動きを用いた高速動画画像モザイクング手法
中居友弘	阪府大	LI-001	デジタルカメラによる文書画像検索—1万ページから0.1秒で検索する—

藤井薫和	和歌山大	K-037	異文化間コミュニケーションのための機械翻訳を用いたチャットシステム AnnoChat の開発と適用
松尾徳朗	名工大	LF-004	組み合わせオーケストレーションにおける効用比較に基づいた架空名義入札者発見法の提案
茂木信二	KDDI 研	M-024	センサネットワークにおけるネットワーク内処理方式の性能評価
山下直美	NTT	LK-006	機械翻訳を用いた対話における思い違いに関する分析

以上 12 編

5. 研究会等に関する事項 (定款 第 6 条ロ, ハ)

5.1 基礎・境界ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：33 回 第一種研究会：105 回 (うち地方開催 60 回)

また、第二種研究会、第三種研究会及び学術研究集会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	西谷 隆夫	5 (5)	141
情報理論	松嶋 敏泰	5 (5)	134
信頼性	福田 収一	8 (5)	62
超音波	崔 博坤	11 (3)	128
応用音響	金田 豊	11 (6)	112
非線形問題	佐野 雅己	8 (6)	159
VLSI 設計技術	木村 晋二	6 (4)	134
情報セキュリティ	川村 信一	6 (3)	189
信号処理	中山 謙二	8 (7)	188
ワイドバンドシステム	太刀川信一	6 (4)	147
コンカレント工学	内平 直志	4 (3)	54
思考と言語	伊藤 憲治	5 (1)	98
技術と社会・倫理	酒井 善則	5 (2)	62
安全性	松岡 猛	6 (1)	42
ITS	水井 潔	7 (3)	111
スマートインフォメディアシステム	宮永 喜一	4 (2)	78

注：研究会開催数の () 内は地方支部等での開催数

5.2 通信ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：50 回 第一種研究会：121 回 (うち地方開催 84 回) 別に、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	安藤 眞	11 (6)	199
宇宙・航行エレクトロニクス	鈴木 良昭	10 (4)	103
衛星通信	小林 英雄	6 (6)	64
環境電磁工学	小賀 隆治	8 (6)	155
ネットワークシステム	笹瀬 巖	10 (9)	211
情報ネットワーク	村田 正幸	10 (8)	241
通信方式	前田 洋一	7 (6)	134
電子通信エネルギー技術	谷内 利明	6 (2)	83
光通信システム	桑原 秀夫	7 (6)	99
無線通信システム	三瓶 政一	9 (6)	233
コミュニケーションクオリティ	阿部 威郎	5 (5)	91
フォトニックネットワーク	山中 直明	7 (5)	123
光ファイバ応用技術	小山田弥平	6 (4)	91
テレコミュニケーションマネジメント	藤井 伸朗	5 (5)	75
モバイルマルチメディア通信	亀山 涉	6 (3)	94
インターネットアーキテクチャ	岡部 寿男	4 (2)	27
ソフトウェア無線	原田 博司	4 (1)	86

5.3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：28 回 第一種研究会：118 回 (うち地方開催 65 回)

平成 17 年度事業報告

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。
第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	谷口 正成	11 (3)	129
磁気記録	三浦 義正	7 (5)	66
超伝導エレクトロニクス	吉田 啓二	4 (2)	30
電子ディスプレイ	下平 美文	7 (1)	96
電子デバイス	和保 孝夫	12 (9)	251
電子部品・材料	石井 清	10 (5)	189
電磁界理論	山崎 恒樹	4 (3)	127
シリコン材料・デバイス	堀口 文男	13 (9)	271
マイクロ波	荒木 純道	10 (6)	189
集積回路	中屋 雅夫	10 (8)	254
有機エレクトロニクス	小野田光宣	13 (5)	128
光エレクトロニクス	小柴 正則	10 (4)	157
レーザ・量子エレクトロニクス	東盛 裕一	7 (5)	161

5.4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：39 回 第一種研究会：118 回 (うち地方開催 82 回)

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ME とバイオサイバネティクス	井出 英人	9 (8)	144
オフィスインフォメーションシステム	森井 昌克	6 (5)	96
画像工学	相澤 清晴	10 (8)	316
言語理解とコミュニケーション	出羽 達也	4 (2)	125
コンピュータシステム	馬場 敬信	6 (3)	84
コンピュータビジョン	山下 雅史	7 (6)	71
人工知能と知識処理	岩沼 宏治	5 (4)	57
ソフトウェアサイエンス	佐伯 元司	6 (6)	88
データ工学	佐藤 哲司	3 (2)	136
パターン認識・メディア理解	村瀬 洋	9 (7)	304
ディペンダブルコンピューティング	古屋 清	8 (4)	104
ニューロコンピューティング	久間 和生	8 (6)	175
知能ソフトウェア工学	廣田 豊彦	5 (1)	50
音声	田中 和世	10 (6)	203
教育工学	永岡 慶三	9 (7)	116
医用画像	仁木 登	5 (4)	150
ソフトウェアインタプリタモデリング	新川 芳行	4 (0)	26
リコンフィギャラブルシステム	末吉 敏則	4 (3)	96

5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：8 回 第一種研究会：23 回 (うち地方開催 15 回)

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	大坊 郁夫	6 (4)	82
ヒューマン情報処理	矢野 澄男	6 (5)	167
マルチメディア・仮想環境基礎	美濃 導彦	6 (4)	82
福祉情報工学	長嶋 祐二	5 (2)	90

6. データベースに関する事項 (定款 第 6 条チ)

科学技術振興機構 (JST) に対して、学会発表論文のデータベース作成に協力し、総合大会発表論文、ソサイエティ大会発表論文、和・英論文誌のデータベース化情報を提供した。

7. 会員に関する事項 (定款 第 3 章)

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合計
平成16年度末登録数 ()はフェロー会員数	7,384 (99)	13,487 (128)	8,390 (103)	11,704 (148)	956	41,921 (478)
平成17年度末登録数 ()内はフェロー会員数	7,119 (100)	13,201 (144)	8,099 (122)	11,617 (159)	954	40,990 (525)
前年度との差	-265 (1)	-286 (16)	-291 (19)	-87 (11)	-2	-931 (47)

(注) ESS:基礎・境界サイエティ, CS:通信サイエティ, ES:エレクトロニクスサイエティ, ISS:情報・システムサイエティ
HCG:ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支部事業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等をおこなった。

1. 北海道支部

講演会	5回	研究会	29回
支部連合大会	1回	学生会講演会	4回
専門講習会	1回	学生会見学会	2回

2. 東北支部

学術講演会	21回	先端技術シンポジウム	1回
学術公開講演会	1回	見学会	1回
特別講演会	3回	支部連合大会	1回
地区講演会	5回	研究会	43回
専門講習会	1回	学生向け事業	4回

3. 東京支部

講演会	3回	研究会	200回
シンポジウム	5回	学生会講演会	2回
地域イベント	1回	学生会見学会	2回
見学会	4回	学生会研究発表会	1回
教育活動	1回	学生会報の発行	1回

4. 信越支部

講演会	10回	研究会	13回
見学会	2回	学生向け事業	2回
支部大会	1回		

5. 東海支部

講演会	5回	研究会	37回
専門講習会	1回	学生会講演会	4回
見学会	2回	学生会見学会	2回
支部連合大会	1回		

6. 北陸支部

特別講演会	1回	研究会	7回
講演会	8回	学生会講演会	8回
専門講習会	1回	学生研究発表会	1回
支部連合大会	1回		

7. 関西支部

講演会	2回	支部連合大会	1回
中高生向け講演会	1回	研究会	56回
専門講習会	3回	学生会見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回

8. 中国支部

講演会	13回	支部連合大会	1回
専門講習会	1回	研究会	17回
見学会	1回	学生向け講演会・見学会	7回

9. 四国支部

講演会	18回	学生会講演会	9回
専門講習会	2回	学生会展示会	3回
支部連合大会	1回	学生会見学会	2回
研究会	22回		

10. 九州支部

特別講演会	1回	支部連合大会	1回
講演会	16回	研究会	68回
専門講習会	1回	学生会講演会	1回
普及啓発活動	1回	学生員向け講習会・見学会	2回

役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成18年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。平成18年2月10日に正員に投票を依頼し、3月3日に締め切り、その開票結果を理事会に図り当選者を決定した。この結果、理事齊藤忠夫、鈴木滋彦、白川功、中野博隆、間瀬憲一、酒井善則、成宮憲一、森広芳照、篠田庄司、古井貞熙、高木幹雄(平成18年2月2日逝去)、築山修治、持田侑宏、中沢正隆、雨宮真人及び監事後藤裕一は退任することになり、新たに富永英義、安田浩、雨宮真人、萩本和男、江村克己、森川博之、得井慶昌、喜多泰代、篠田庄司、古井貞熙、羽鳥光俊、大石進一、吉田進、安藤真、末永康仁が理事に、後藤敏が監事に就任することになった。

また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、本日の通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役職名	退任	留任	新任
会長	齊藤 忠夫		伊澤 達夫
次期会長	伊澤 達夫		富永 英義
副会長(在京)	鈴木 滋彦	青山 友紀	安田 浩
副会長(地方)	白川 功	赤岩 芳彦	雨宮 真人
総務理事	中野 博隆	中嶋 正之	萩本 和男
会計理事	間瀬 憲一	並木 淳治	江村 克己
編集理事	酒井 善則	篠原 弘道	森川 博之
企画理事	成宮 憲一	土井美和子	得井 慶昌
調査理事	森広 芳照	桑原 秀夫	喜多 泰代
編集長(理事)	篠田 庄司		篠田 庄司
企画室長(理事)	古井 貞熙		古井 貞熙
規格調査会委員長(理事)	高木 幹雄 (平成18年2月退任)		羽鳥 光俊
ESS会長(理事)	築山 修治	(会長)	(次期会長)
CS会長(理事)	持田 侑宏	坂庭 好一	大石 進一
ES会長(理事)	中沢 正隆	井上 友二	吉田 進
ISS会長(理事)	雨宮 真人	保立 和夫	安藤 真
監事	後藤 裕一	木戸出正継	末永 康仁
評議員(在京)	安藤 真	今井 和雄	後藤 敏
〃	石川 宏	市川 晴久	伊藤 晋
〃	河内 正夫	小館香榎子	太田 直久
〃	正村 達郎	津田 俊隆	岡田 忠信
〃	安田 浩	中嶋 信生	酒井 善則
〃	栗井 郁雄	三木 俊雄	村上 篤道
〃	伊藤 弘昌	板倉 文忠	安達 文幸
〃	熊谷 貞俊	尾家 祐二	石井 光雄
〃	高橋 達郎	小柴 正則	島村 和典
〃	安浦 寛人	野田 進	森広 芳照
〃	浅見 徹	森永 規彦	横矢 直和
〃	大柴小枝子	荒川 薫	秋葉 重幸
		田中 良明	石塚 勝
		(大石進一)	

〃		喜多 泰代	鎌倉 勝利	榎並 和雅
〃		倉本 實	趙 晋輝	大柴小 枝子
〃		杉村 領一	富田 義数	計 宇生
〃		長谷川 晴朗	西澤 台次	小林 岳彦
〃		畑岡 信夫	林 秀樹	関根 好文
〃		福沢 恵司	柳川 久治	畑岡 信夫
〃		榎並 和雅	山内 良三	古田 洋介
〃		(三宅 篤道)	李 可人	村田 正幸
〃	評議員	村上 哲也		三島 瑛人
〃	北海道支部長	佐藤 進		西岡 隆夫
〃	東北支部長	並木淳治(理事につき評議員としない)		飯塚 久夫
〃	東京支部長	深海 龍夫		吉川 敏則
〃	信越支部長	荒井 英輔		谷本 正幸
〃	東海支部長	山淵 龍夫		西川 清
〃	北陸支部長	濱 裕光		古池 進
〃	関西支部長	本多 茂男		山下 英生
〃	中国支部長	三村 尚史		山田 芳郎
〃	四国支部長	長谷川 勉		高山 文雄
〃	九州支部長			
〃	評議員(学生会顧問)			
〃	北海道支部	雨宮 好仁		鏡 愼
〃	東北支部	野口 一博		伊藤 憲三
〃	東京支部	佐波 孝彦		関屋 大雄
〃	信越支部	今井 博英		萩原 春生
〃	東海支部	藤原 修		高木 直史
〃	北陸支部	山根 智		葛原 正明
〃	関西支部	飯田 元		秋山 正博
〃	中国支部	宮原 哲浩		岡村 寛之
〃	四国支部	橋爪 正樹		小野 和雄
〃	九州支部	田中 俊幸		中川 豊

備考：()内は年度の途中において交代した前任者を示す。

互選代議員	青木 清児	相澤 清晴	石原 康利
〃	荒木 純道	井上 真杉	泉田喜一郎
〃	井上 誠也	伊藤 哲郎	市毛 弘一
〃	泉田喜一郎	伊藤 哲郎	井 研治
〃	乾 敏郎	上村 弘之	今井 一雅
〃	大沢 秀則	榎生 逸雄	宇佐見正士
〃	大町真一郎	江村 克己	上林 真司
〃	太田 直久	小原 仁	上原 秀幸
〃	岡本 好弘	加藤 景三	小野寺秀俊
〃	神原 栄	川副 和宏	大久保賢祐
〃	北村 泰彦	久我 守弘	大濱 靖匡
〃	九鬼 孝夫	久野 義徳	大森 浩史
〃	久保 智裕	葛原 正明	岡本 好弘
〃	栗山 繁	河野 隆二	加藤 暢
〃	小林 正樹	佐々木 守	片山 統裕
〃	斎藤 武夫	佐藤 純	金子 峰雄
〃	真田 博文	笹岡 秀一	菊間 信良
〃	塩本 公平	潮崎 浩則	北村 義弘
〃	清水 利朗	白井 宏	行場 次朗
〃	菅沼 明	曾我 哲夫	金 亨燮
〃	杉浦 行	田井 秀一	熊耳 浩
〃	須田 博人	田中稔次朗	洪谷 徹
〃	芹川 聖一	高木 直史	鈴木三知男
〃	田口裕二朗	高橋 広基	田中 二郎
〃	田中 清	橋 俊郎	竹下 哲義
〃	田村 裕	新田 恒雄	辻岡 哲夫
〃	高橋 隆一	西尾 芳文	土橋 宜典
〃	辻 寧英	沼田 哲宏	中島 康治
〃	戸井 章夫	荻戸 立夫	中村 隆
〃	渡久地 實	原田 耕一	長尾 智晴
〃	中尾 康二	藤野 義之	波平 寛之
〃	長尾 智晴	真鍋 克也	橋場 寛之
〃	仲野 豊	牧野 正三	林田 行雄
〃	西原 明法	松嶋 敏泰	廣瀬 明
〃	沼 昌宏	松田 弘成	藤井 俊彰
〃	野口 義夫	宮原 未治	藤岡 清人
〃	野中 弘二	森川 功治	堀 則明
〃	藤原 修	森塚 宏平	牧野 哲也
〃	森倉 晋	矢野 健剛	水本 和樹
〃	山里 敬也	吉田 宏	村上 秀男
〃	山根 國義	渡辺 一央	湯川 高志
〃	渡邊 祐		吉澤 聡